

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 技術力

- 5 **インフラ技術の将来**
横浜国立大学 名誉教授
池田尚治
首都高速道路株式会社 取締役常務執行役員
恵谷舜吾
- 10 **ユーザーの視点で考える**
[JAF Mate] 副編集長
立川 薫
- 12 コラム 道 最相葉月
- 14 CHALLENGE
鋼構造物の疲労対策
- 15 データ物語
データが語る、お客様の安全性を
確保する維持管理の実態!
- 16 **首都高HEADLINE**
- 18 business essay
「やる気」は天の邪鬼
同志社大学 政策学部 教授
太田 肇
- 20 つくる人まもる人
首都高メンテナンス神奈川株式会社
道広正照
- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
illustration by Keika Nakajima
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited

都心の方から隅田川沿いの首都高6号線を走っていくと、車窓に段々と東京スカイツリーが近づいてくる。まさに、いまどきの首都高絶景の一つといえるだろう。手前にアサヒビールの金色のオブジェが、少し先輩の貫禄を漂わせながら存在している構図もおもしろい。

スカイツリーのお膝元の町については、もはや様々な情報番組や雑誌で紹介されているけれど、今回は僕が鼠肩にしている場所をいくつか案内することしよう。

column | RAMPWAY

首都高名所案内④

スカイツリーが見える町 向島

コラムニスト
泉 麻人

スカイツリーが建つ業平橋の駅から言問橋の方へ歩いていくと、牛嶋神社の前から見番通りと名づけられた墨堤通りの旧道が続いている。見番の名の如く、このあたりがいわゆる向島の料亭街。いまや木造の家は少なくなつたものの、時折和服姿の艶っぽい女性とすれ違う。聞いたところでは、パートを含めて300人くらいの芸者さんが、この見番に所属しているという。

通りの角っこの所に、その名のとおり「カド」という喫茶店がある。ここは生フルーツジュースと自家製のパンをウリモノにした店で、昭和30年代に先代が開業するまでは人力車の置き場だった所らしい。

川寄りの墨堤通りには、桜餅で有名な長命寺があるが、そのまま狭い路地に入りこんでいくと、やがて「鳩の街通り」の看板を出した商店街に行きあたる。鳩の街とは、終戦後に10年ばかりにぎわった歓楽地の名前で、永井荷風の小説や随筆にも描かれている。もはや往年の色町の面影は消えたが、一筋の狭い通りにコロッケを立ち売りする店、履物を並べた店：なつかしい雰囲気個人商店が軒を並べている。

このあたりから水戸街道を渡って、曳舟界隈の迷路じみた商店街を歩くのも面白いし、明治通りの脇にある向島百花園に立ち寄って、都心とは思えないような

野草の繁る小径を散策するのも一興だが、もう少し先の方まで足を運んでみよう。墨堤通りを北進していくと、並走する首都高が隅田川から支流の綾瀬川の方へ向きを変える手前に「鐘紡前」というバス停がある。いまは関連の倉庫しか置かれていないが、ここがカネボウ鐘ヶ淵紡績の本拠となつた場所で、なんでも將軍吉宗が引きあげようとした珍重な鐘がこの辺の川つ淵に沈んでいた：というのが地名の源らしい。

鐘との由縁はよくわからないけれど、この鐘紡の裏手に建つ多聞寺は、茅葺きの山門を設けたなかなか趣きのある古刹である。僕がこの寺を初めて訪ねたのは、隅田川七福神巡り（ここには毘沙門天がある）をしていたときだが、ここから鐘ヶ淵駅へ向かう道筋が昔の参道じみていてとてもいいのだ。

銅板建築の町家、古めかしい木造の蕎麦屋：保存したくなるような物件が並んでいる。そんな背景に時折、スカイツリーの白楼が入りこむ。ぜひ散策してみたい、向島北端の界隈だ。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『東京ふつうの喫茶店』（平凡社）がある。